

第6回能勢町総合計画審議会及び地方創生推進委員会 議事録

【開催日時】 令和3年8月20日（金） 14時00分～16時15分

【開催場所】 能勢町保健福祉センター集団指導室

【出席委員】 委員17名中15名出席の下、開催した。※順不同

神吉紀世子、猪井博登、神出計、榎原友樹、尾下忠、野津俊明、奥畑司、三浦環子、山本光晴、東亮一、田中利明、大城桜子、久慈真里、八木修、東良勝

【欠席】

三浦勝志、中西信介

【事務局】 藤原総務部長、百々総務課長、矢立政策推進係長、株式会社建設技術研究所（業務支援）

【協議事項】

- （1）前回意見の振り返り、調査研究の報告
- （2）基本構想－素案－について
- （3）基本計画－施策の体系－について
- （4）その他

・開会

・会長あいさつ

会長）久しぶりの委員会である。開催時期がずれ込んだが、この間に、能勢分校に話を聞く会や地域で活動されている方に実地でお話を聞く調査などを行った。私自身も現場の声を聞くことができ、実施してよかったと思っている。これを計画に反映していく必要がある。計画の書き方はもとより実際に10年間動いていくようにするため、さらに一歩進んで提案していかなければいけないと思っている。今日は、調査の状況やそれを踏まえた提言を出し合い、大事な情報として共有したい。

また、そろそろ基本計画について考えていく時期になった。農業をどうするか、土地利用をどうするかなど、基本構想よりも具体的に書くのが基本計画である。書き方についてはいろいろな方法がある。ぜひご意見をいただきたい。

・委員紹介

事務局） 構成団体の役員改選に伴い、山本委員、奥畑委員が就任した。これまで委員として参画していた中谷博氏は本人の申し出により辞任した。（新任委員挨拶）

・議事

会 長) 本日は主に(1)と(3)の議論に時間をとりたい。(2)については、毎回、バージョンアップしているが、今回は、ご意見があれば、という程度としておきたい。(4)では、さらなる調査の提案や分科会をつくるかどうかを含めた今後の進め方等についての意見をいただきたい。

(1) 前回意見の振り返り、調査研究の報告

【資料説明 略】

会 長) 今の振り返りに加え、前回、委員に健康づくりの話を伺ったことも含め、様々な観点からご意見をお願いしたい。

私は、建築が専門なので、土地利用に関連して、業者による新たな建築や古民家のリノベーションがやりにくいことについて、今回の調査で詳しく話を聞いた。その結果、民家のリノベーションがしにくいのは、市街化調整区域の問題の中でも、用途転用ができないことによることがわかった。用途転用であれば、区域変更よりも大阪府と交渉しやすいと思う。

また、新しい施設や住宅を建てたいゾーンを絵にして大阪府と交渉する方向で、役場がすでに着手していると聞いている。

これらをバックアップするために、何らかの調査をしてその結果をデータで示すことなどが考えられる。計画に書いてから調査をするのか、調査をやってみて、感触をつかんでから計画に書くのか、その辺は考えていきたい。

委 員) 能勢分校や農業団体の若い人の声を聞いてほしいと提案した当事者であるが、当日は参加できず申し訳なかった。意見を聞く中で、具体的な問題が出てきて、それを総合計画の施策に入れていくことになると思うが、かなりタイトなスケジュールになりそうである。せっかく聞いた具体的な意見が活かせるか心配である。今後、どのように調整していくのかという問題がある。

能勢町の大きなテーマである交通問題については、地域公共交通会議で検討しており、来年度に実証運行をすることになっている。総合計画とうまく兼ね合うのだろうか。総合計画は上位計画であり、うまく兼ね合わない場合は、問題点をあげ、テーマを提案しつつ、策定していく必要があるのかと思う。

委 員) DVD で、委員の発表と能勢分校の生徒の話を聞いた。情報発信の仕事をしている立場から、疑問に思ったことがある。能勢分校の生徒、地域魅力化クラブが情報発信しているのだが、配信の場がどこにあるのか公になっていないように思う。素敵な活動をしているのに、もったいないと感じた。

能勢分校の教頭先生が、定期的に地域に向けて発行している「たより」に関して、どのように情報発信すれば反応が得られるのかわからないと言われていた。しかし、具体的にどういう意図、目的でどういう言葉を使ったのかわからないと、改善策を検討しようがない。もう少し詳しい情報がわかれば、伝えられることがあったかと感じる。

会 長) 知らせ方が難しいという話が出ていて、もったいない感じがした。

委 員) 調査研究1と2の前半に参加した。能勢分校との意見交換では、若い人が問題意識を持つ

て行動していることを嬉しく思った。一方、学校の活動で取り組んでいる間はよくても、卒業して大学に入ってから、大城委員のように気持ちをつないでいる方もいるが、気持ちが途切れてしまう人もいるかもしれない。大人になってから、能勢にどう還元していくのか、地元のために何をしてくれるのか。頼もしく思いながらも、10年後に能勢とどうかかわってくれるのか、また、10年後の能勢に彼らの活躍の場があるのかどうか気がなった。

調査研究2に関して。私も都市計画や市街化調整区域の問題は気になっているが、それとは別に、栗山を借りて栗栽培を始めるなど、様々な個の活動が起きていることに対しては、ありがたく、頼もしく感じた。上位計画である総合計画の中に盛り込み、そういった活動を守っていけたらよいと、思いを新たにした。

委員) 能勢に住む若者として、これからも能勢に住みたいかという質問を受けることがある。今は大学生で能勢に住んでいないが、能勢町は好きで、週末は必ず帰ってくる。弟も川西市に住んでいるが、週末はバイトを能勢町でしており、能勢町に軸足がある。しかし、将来の就職を考えた場合、能勢にしながら望む職業につけるのかという問題がある。仕事は、能勢町やその周辺では限られている。能勢に住み続けたくても、自分のやりたいこととマッチしないと住めなくなる。そういう難しさを感じている。

交通に関して。妹が能勢分校に通っているが、バスの本数が少ない。父母は仕事をしており、送迎できないので、学校が昼で終わった日は徒歩で7キロ先から帰ってくるのが当たり前になっている。能勢分校の進学率を上げるためにも、難しいとは聞いているが、町の小学校のバスを使う等の制度ができてよいと思う。

委員) 2回とも参加していないので、一般論になる。緑の中で子育てしたいなど、若い人で能勢に住みたいと思う人もいると思うが、ばくぜんと緑が多いところに行きたいというのではないと思う。お金が出し入れできる、役所で書類が取れる等の最低限の生活を維持するための要素があって、なおかつ自然豊かなところというのが条件になるのではないか。若い人が能勢町に住みたいと思った時に相談する窓口はあるのか。なければ作らないといけない。縁のない人が能勢に住む場合のハードルは高い。住む場所、空き農地などの情報が提供してもらえるところが必要かと思う。総合計画にも盛り込み、若い人が来やすい町としていくことが大切だと思う。

会長) 役場に転入者窓口はあるのか。

事務局) 相談窓口はある。

会長) 10年前よりは進歩している。

能勢分校との意見交換では、生の情報が届くかどうかということが、大きなテーマとなった。伺った農家では、非常に歓迎され、発信すべきコンテンツを聞くことができた。

委員) 2回目途中から参加した。私の同級生もほとんど能勢町にいない。能勢が嫌だから住んでいないという人もいるが、能勢が好きだが就労の関係で能勢に住めない人も多い。考えていかなければならないことだと思う。

交通の問題について。スクールバスや幼稚園バスがあり、子どもたちにとっては、良い環境だと思うが、学校を卒業し、町外で働くようになった場合、車を持っていない人は町を出ていかなければならない。

委員) 企業誘致に関連して、前回の会議の後、大手企業3社から能勢町を紹介してほしいという

話があった。大手中堅スーパーが、コロナ禍の中で売り上げが上昇し、物流倉庫を建てたいとのことで、町に紹介した。また、1万坪の土地の件で大手デベロッパーを町に紹介した。別の大手デベロッパーからは、リモートの仕事が多いので、戸建住宅を探しているという話があった。

私は、豊能町、川西市、猪名川町で空き家対策に関係しているが、最近、戸建住宅の話が多い。大和団地の空き家はこれまでまったく売れなかったが、いま住宅メーカーから買い取りたいという話がきている。豊能町のときわ台、光風台の空き家についても、来週、紹介する段取りになっている。新名神が建設され、ニーズが増えてきているところだが、物件が不足している。能勢町でも物件があれば、話があると思う。古民家など売れる物件は業者が扱うと思う。

ただし、いまは価格を聞かれても回答できないし、売り手も本当に売るかどうかわからない状態である。その辺を整理し、大手企業、役場、私どもとで対応していきたい。

今日は、能勢町出身の新人を随行している。能勢町に残りたいと言っている。

会 長) 随行者の方、いかがか。

随行者) 初めて参加させてもらったが、このような委員会のことを知らなかった。いろいろ考えていただき、ありがたいと思った。

妹が高校に通っており、交通の便については関心がある。私は高校から町外に出ている。駅まで車で15分くらいだが、高校生は車で通学できないし、いまは両親が働いているのが普通で送迎もできない。遠くの高校に通っている場合、帰りのバスの便がなくなってしまふ。いまは日曜日にはバスが走っていない。そのような状況であり、厳しいところがある。

住むところ、働くところがあれば、能勢町もよいと思うが、自分の同級生も就職や大学で半分以上が行った。

会 長) 別で聞いたところでは、同級生はほとんどが、すぐその箕面に住んでいるとのことであった。

委 員) 調査には参加できなかったが、資料やDVDを拝見すると、能勢には頑張っている若い人がおり、外から来た人も頑張っており、力にあふれていることがわかった。若いパワーがあり、もともとのコミュニティ以外に若い人のコミュニティがある。それをもっと外に発信していくべきだと思う。能勢分校のホームページはあるが、高齢者の強いつながり等、他にもいろいろあるので、外にいる人にそれがわかるようにできないか。たとえば町のホームページから町の皆さんが作るホームページにリンクするのもよいかもしれない。新名神や箕面のトンネルができて、これから能勢に住みたいという人は増えてくると思う。私も、もし家族がOKすれば、能勢に家を建てて、ここから通いたいくらいである。いまは神戸から1時間かけて通っているが、能勢からなら45分を通える。ここで仕事をするのではなく、ここに住んで、外の仕事に通う人が増えるのもよいのではないかと思う。そういった人々に対してやさしい町にしていくべきかと思う。高齢になったときのセーフティネットとして、医療、福祉、介護が整っているということもアピールしながら、町に活力があることを外にうまく発信する仕組みがあるとよい。総合計画への落とし込み方は、考えなければならないが、うまく発信していくことが大事である。

能勢町は、大阪の中ではコロナの影響が少ない。能勢にもコロナを恐れる人はいるが、他

市の人と比べ、コロナと離れている感じがする。それは環境が良いからである。人口を増やしたいのであれば、そういったことも PR し、自然の中で住めることをアピールしていくとよい。

委員) 調査 1 の DVD を見た。能勢分校では、小学校に教えに行くなどしている。町報にも関連した様々なことが載っている。そういったことをもっとアピールしていけば、能勢分校に行く子が増えるのではないか。ホームページを作るなど、アピールしていくことが大事だと思う。

また、調査 2 に参加した。若い人がたくさん来ていることを知り、嬉しく思った。転入者に対する支援を町でもっとやっていくべきではないかと思う。土地を借りようとしても、古くからの人は、いったん貸すと返ってこないのではという心配があるのか、なかなか貸してくれない。コーディネートする機関があればよいと思う。

委員) 調査 1 に参加した。交通の課題について、高校生から提案があり、e-バイク、電動補助の自転車の利用を試行することになり、私自身も活動している。交通安全の問題もあるので専門の先生方にも入っていただいている。e-バイクは、地元の自転車屋さんの協力で現在は 3 台、今年中に 10 台になる予定である。今後の展開はわからないが、高校生に聞くと、e-バイクに乗るのは、そんなに難しくないそうである。坂道があるが、女性でも座ったままで問題ない。安全の問題はあるが、進めていきたい。

もう一つ、高校生の話を聞いていて思ったのは、交通の問題は自由時間の問題だということである。移動によって時間的に拘束され、青春時代の活動時間がなくなるという問題であり、高校に通うことだけでなく課外活動の面からも考える必要がある。高校生の交通問題は非常に深刻である。

高校生の声を聞いて、一度外に出てみたいという気持ちを否定することはできないと思った。むしろ自然のことだと思う。ずっとここにいることだけが地域課題の解決策ではないかもしれない。皆が帰って来なくても、大学で外に行き、ネットワークを作って、いろいろな取り組みを見て、やはり能勢がよいと思って帰ってきて、能勢のまちづくりを引っ張ってくれる人が一人、二人いればよいのではないか。出て行った人や、別の地域の高校に通う人に対し、それでもよいという気持ちで、関わり続けようという雰囲気があればよいと思う。

委員) 仕事柄、活動に参加することがままならずお許しいただきたい。幼稚園の仕事をしており、子どもたちの原点の部分に関わっている。人間形成は連続的に行うものであるので、子どもの将来のことを思いつつ、発達させていくことが私たちの仕事かと思っている。里山留学の制度は素晴らしいと思う。幼稚園では小学校、分校とともに町報で活動内容をお知らせしている。記事を書いているが、ただ写真を載せるだけではなく、目的をはっきりした方がよいという気がしてきた。能勢分校の教頭先生はその辺を敏感に感じておられるのだと思う。今後、意見交換していきたい。

1 ヶ月ほど前の話であるが、バスケットチームの選手が、幼稚園にバスケットボールを寄付してくれた。あわせて能勢町に土地がないかと投げかけてきた。コート一面を整備し、喫茶スペースを設け、父母が能勢に来てサークル活動等もしながら、子どもがスポーツをする姿を見られるような場所をつくるのが彼の夢だそうである。私は、山に土地があり、使っていない田んぼもあるので、イノシシやシカの対策が必要、草刈りもしなければなら

ないということを承知であれば、使ってもらってよいという話をした。

また、大阪の方が、能勢で土地を探していると言ってきた。土地も古民家もあるが、住民として住む場合の条件が厳しいことを伝えた。条件的に住めないのに買ってしまうと後で問題になる。自治会、財産区等の問題もある。その辺を話したら、買うのをやめることになった。

土地を買いたい人がいても、条件が合わないとならない。その辺も整理していかないといけない。

クリは、そのままでは売れない小さな実もスイーツなどに加工することができる。能勢のトマトも市場に出るものは立派であるが、売れないトマトがたくさんある。それをどう始末したらよいかと生産者に相談され、私はジュースにすればよいと言った。いまは捨てないといけないが、圧搾機に入れてジュースを作ることが広がり、販売ルートができれば、能勢町が活性化していく。

こういった現実の問題も解決していかなければならない。計画ができた後、大きな企業誘致等だけでなく、小さな部分でも実行していかなければならないことがある。

委員) 近隣にフードロスをなくすことで豊中商工会の賞をとられたシェフの方がいらっしゃるフードロスの問題については、一度、その方を紹介する。

委員) よろしく願います。

幼稚園では様々な会合が開かれ、ゼロ歳の子や在園者など子どもを連れて来られる。また、土曜日には園庭開放を行っており、子どもたちが遊具で遊ぶ。使っていただくのはよいが、公園化すると私有財産である施設の痛みがひどく、改修にお金がかかるということもある。開かれた幼稚園づくりに関しては、その辺が課題となっている。

年少人口は下降気味である。私の幼稚園には川西市、猪名川町、京都府亀岡町からも来られており、多数のバスを走らせるのに人件費もかかるが、おかげさまで、経営が成り立っている。幼稚園が潰れたら、幼児教育は一から立て直さなければならない。年少人口の減少をとめることができない中で、どのようにして幼児教育を成立させていくかということが、私どもの悩みの種である。

委員) 交通の問題がたくさん出されているが、地域公共交通会議では、デマンド交通の実証実験を来年から行う話が出ている。一方でこの4月にバスを減便した。ご不便をおかけして心苦しいところである。能勢地域には、昭和47年から平成9年まで、デマンドバスが走っていた。営業所に電話で、乗る場所、時間、人数などを連絡いただければ、バスが迎えに行き、そのバスで移動して路線バスに乗り換えてもらうものであった。デマンドバスがなくなり、路線バスも減便になった。その一番の原因は、乗ってもらえないことである。みんな乗ってバスを残そうということを、能勢町でPRしていただいているが、なかなか利用者が増えない。交通を残していくことに関して、公共交通会議を通じてアイデアが出せればと思っている。

能勢分校の話聞いた。委員から3人の里山留学生が来ていること、教頭先生からは一生懸命学んでいることを伺った。これは、かなり広報して来られたことと察する。本当に良い制度だと思う。島根県の隠岐の島にも留学制度があるが、隠岐の島では人口が増えていると聞いたことがある。高校生の時に里山留学で能勢の暮らしを経験すれば、将来的に能勢に住む、親を説得して家族で能勢に移住するなどのきっかけにもなるかと思う。

会 長) 今日の貴重な話をどのようにして計画に反映していくのか議論が必要である。それぞれ質は違うが、共通して、伝えることの難しさ、ものすごく努力をするが、ある部分しか伝わらないという苦しさがある。しかし、なかなか動けなかった 10 年前と比べると進化している。探している人がたくさんいるので、届きさえすればということを感じた。先生の話された健康に対する取り組みのことなど、素晴らしい話なのに、能勢町外の人ほとんど知らない。いろいろな切り口があるが、大きなテーマを出すのがよいかと思った。全体テーマ、全体共通内容の書き下ろし作業のやり方としては、たとえば 3 人くらいが集まって話し合い、委員が分担して、それに肉付けしながらまとめていく方法はどうか。全体共通テーマで頭出しすれば、細かい部分は、役場側のニーズからたくさん出てくると思う。それを全体テーマで串刺しにしていけるのではないか。

今日のご意見を総合して委員、いかがか。

副 会 長) まず、総合的な話から。情報でつながることに関しては、情報がないという問題のほかに、情報を出してもらえないという意識の問題もある。今日は、意識を変えなければいけないという話がいくつか出された。能勢から一方通行で情報を出すだけではだめだという話と生活できる環境を作っていかなければいけないという話があり、後者について、公共交通が足りないとの指摘があったのだと思う。個別の取組については、スケールアップしていくため、支援方策が求められるということがある。

次に私個人からの話をする。地域公共交通会議でデマンド交通の実験の話をさせてもらったのだが、なかなか住民に伝わりきれておらず、悩ましいところである。阪急バスについても、商売としては減らさざるを得ないが、それをどう伝えていくのか。方針はあっても伝えるチャンネルがない。全国的にも同様である。まちづくりも同様であるが、答えはない。アンケートだけでなく、それぞれの地域で説明会をするとともに、地域からの話も聞かなければいけないと考えている。第三者的視点からは、路線バスが厳しいのでデマンド交通の実験をしたいというのは正しいことだと思うが、なかなか伝わらない。減便して困っている人もいる。拙速すぎたという思いもあり、やり方については悩んでいる。総合計画に関しても、同様に、どう発信していくか、意識を変えることをどうサポートしていくのか、そこが悩ましいところである。

会 長) 委員がうまくまとめてくれたが、情報をどう届かせるかということ、意識改革が必要な部分があるということ、そして、能勢の環境も含め、地に足の着いた生活をしていくことが大事ということである。結果的には、それが地域の宝である。たとえば農家が 4H クラブ、青年農業クラブを復活させたのはすごいことだと思った。4H クラブがなくなった話は全国で聞くが、復活した話は聞いたことがない。メンバーは違っても古きよきものをしっかりと伝え、そのうえで頑張り、改革してくということに感動した。

他に言いたいことはないか。

委 員) 情報の伝え方に関して。皆さん、自分の活動を伝えることはしているが、横の人の活動を伝えることはあまりやっていない。たとえば、委員のやっていることを私が発信するとする。委員のコミュニティと私のコミュニティは違うので、横展開、斜め展開ができる。能勢分校が発信すると、高校に関心のある人は見る。役場で発信してほしいと言われるが、役場のホームページを見る人は少ない。個人が facebook に書いたことは友達が見る。皆でよい取り組みを応援し、皆でアクティブに横の活動を知ろうと思い、伝えようと思うよ

うな形であれば、広がりを持てると思う。委員のようなプロがいるので、そこに情報がいけば、素晴らしい伝え方をしてくれるかもしれない。私は、委員の取り組みや皆さんが困っていることを発信していきたい。自分のコミュニティの中では知られていないことをお互い伝え合おうというコンセプトがよいかもしれない。

委員) 行政にやってもらおうということになりがちだが、行政には制約もあり、行政にお願いすることには限界がある。結論として、自分たちでやるのが一番早い。2ヶ月前程前から、自分たちで能勢のプラットフォームとして飲食店や不動産など能勢のことなら何でも知ることのできるポータルサイトを作ることをご構想しており、戦略を立てているところである。

会長) そこで先生がお話されている情報が発信されるとか。

委員) 町民に対し、知って終わるのではなく、よい取り組みや問題だと思ったことは発信しようという意識づけをしていきたい。そういったことを総合計画のどこかに書いておけばよいと思う。

会長) どう書けるかという問題はあるが、それは、全体テーマ的な横串になりそうな気がする。

(3) 基本計画－施策の体系－について

(4) その他

会長) 事務局に基本計画のたたき台を作り始めてもらっている。資料3は、基本計画の施策の体系のたたき台で、役場のヒアリング結果も完全にはないが反映されているそうである。比較的標準的な形になっているが、ある程度分類やグルーピングをして、各部局が自分の仕事が見えるようにする必要がある。最終的に基本計画には役場のやる仕事を書くことになる。説明文は変更可能なので、施策の大綱と施策テーマについてご意見をいただきたい。施策の大綱の水色は人材育成・人材が繋がっていくサイクル、薄オレンジはウェルビーイングで、自然環境も含め健康で幸せな暮らし、黄色は地域経済、紫が脱炭素化・レジリエンスで、SDGs、エネルギー、気候問題など、緑は行政サービスの効率化の話になる。最終的には右端の施策テーマを仕上げ、今日出された話もここに紐づけることになる。一つに紐づけるのではなく複数に紐づけることもあり得る。今後、今日の話について、この中で場所を与えていく地道な作業が必要になる。

まず、この資料を見て感じたことを伺い、その後、今後の進め方について議論したい。

委員) カタカナが多く、わかりにくい。もう少しわかりやすく表現できないか。

会長) 珍しい言葉でなく、普通の言葉で書こうということ。伝えるためには大事かもしれない。

委員) テーマについては分科会で検討していくのかもしれないが、思っていることを作業資料に書き込んできたので、順番に申し上げる。

「浄瑠璃の保存と継承」について。いまはコロナで休んでいるが、観光物産センターで2ヶ月に1度、3人の方が三味線を持ってきて、14時から1時間ほど浄瑠璃の上演をしており、そこには町外からも結構人が来ていた。私は観光ガイドの会に所属し、観光案内所で町外の方とお話する機会があるのだが、次の上演のことを聞かれたりもする。観光物産センターには人が多く来るので、うまく活用していけばよいと思う。

健康寿命について。いきいき百歳体操は、各地域で頑張っており取り組んでいる。私の地域はコロナで休んでいるが、コロナが収束したら再開したい。有酸素運動やウォーキングなど

も健康のために進めていけばよいと思う。先生が中心になり進められている「のせけん事業」に、私も参加している。そういった取り組みも広げていけばよいと思っている。

土地利用について。私は新興住宅地に住んでいるが、何十年も前から放置されている土地がある。地主と連絡が取れず、草が生い茂っているところもある。草は自治会で処理するのでよいが、土地を利用させてもらえないかという思いがある。町の固定資産税台帳で調べても、それ以上のことはできない。

観光振興について。観光協会はプロモーションビデオを作っている。観光協会の会員は、年会費 1 万円を納め、観光案内所にチラシ等を置いてもらっているが、チラシでなく、ビデオで見てもらえるようになればよいと思う。

道路について。今後、シニアカーなどが増えると思うが、歩道ががたがたである。また、車道を自転車で走っていると、後ろから自動車が警笛を鳴らして追い越していく。自転車は車道を走るものだとし、意識改革すべきである。道路の整備はしっかりとやっていく必要があると思う。

里山資源について。森林セラピーで健康になれるということがある。森林セラピーの団体もあるが、参加すると有料である。歩くだけでも健康になるので、山道を整備して、何かできたらよいと考えている。それを提案したい。

- 委員) 計画策定の前提となる状況認識についてであるが、国によると、能勢町の人口は、20 年後には 4,000 人台、平均年齢は 70 歳近く、年少人口は 100 人余になると予測されている。台風と同様に近づいて初めてよくわかるということがある。20 年しかないと考え、20 年先の事態を想定して計画していくべきではないか。高齢化をとめる特効薬はなく、東京でも人口が減っていくと言われており、今後、事態が好転する可能性は少ない。人口 4,000 人で子どもがほとんどおらず、高齢者ばかりの能勢町になった場合、いま想定している影響よりも状況がよりシビアになるのではないかと。空き家や休耕田ばかりで、山も荒れる、消防団や祭りなど地域の結びつきも維持できない、道路や水道も維持できなくなる。そういう状況でも生きて、暮らしていけるようなまちづくりを基本にしないといけな
- い。
- 今は買い物場所や公共施設が分散し、皆が車を運転する前提で町ができているが、20 年先には運転できない人が圧倒的多数になる。公共交通を充実させて人を移動させる発想とは逆に、生活に最低限必要な機能を 20 年かけて集約し、歩いて暮らせるまちづくりをし、それができた後にソフト面のまちづくりに取り組むことが考えられる。まずは生きていかなければいけない。もう少し、使い勝手の良いまちのスタイルを考えながら計画を立てていくべきかと思う。

- 会長) 基本構想の後半に現状把握が載っているが、20 年後にどうなるかは、現状把握からはわからない。人口など予測値があるものはそれを踏まえることが必要である。あれもこれもできないとなった場合は、何かを死守しつつ、別の方向に行くことになり、いままでどおりでないことをやる勇気が必要となる。個別のことでなく、そういうことについて何らかの位置付けをしておく必要があるのかもしれない。

- 委員) 20 年しかないので、同時並行でやっていくべきだと思う。

- 会長) 常に別の方法を考えていくことであり、それは、一つのテーマになるかもしれない。

- 委員) 残りの検討期間が少ない中、ネガティブな予測がある一方で、ポジティブな話もたくさん出ており、その矛盾点をどうするのか。テーマ別の解をすべて求めるのではなく、課題を住

民と共有することで、上位計画としての位置づけをするのがよいのではないか。

データに関しては、国勢調査の最新データが活用できないのが残念である。新しいデータが出始めているので、可能であれば、策定期を1年遅らせ、違う形で数字を見ることも考えられる。

会 長) 予定された時期には何らかのものができていないといけないと思う。

基本計画に書き込める個別施策は、既存の施策を含め向こう3年くらいの施策だと思う。基本計画のあり方への挑戦として、共通認識を本体に書き、書き込める施策、役場がやりたい施策や住民委員会側のアイデアを紐づく形で載せていく形が考えられる。策定したら、それで10年間走るのではなく、3年経てば書き換えられるが、大きな骨太ポリシーは書かれているという計画書としたらどうか。20年の前半の10年と考え、現状ではどうかと思うようなことでも書き込んでいく。10年後まで完璧に書いて、見直しもしないということはあり得ないということである。

少し変わっているが、初めて読んでもわかるような基本計画としたい。普通は達成をめざす指標としてKPIを書くが、KPIのような方式にはしない。施策テーマ群が並んでいるのが、当たり前だと思っていたが、そうではなく、具体的に書きすぎず、頻繁な見直しが必要な施策にマークがついているなど、テーマの性格付けがしっかりわかるようにしてあれば、住んでいる人、関わっている人が自由に発想して動いてよいというメッセージになる。役場も困らないような形としていきたい。

どのような冊子体になるのかを考えてみた。基本計画の最初にいろいろな人が登場するグラビア的な特集ページを載せることで、策定の根拠として、調査を行ったうえで作ったことがわかるようにしたらどうか。そして当初は、その後に硬い内容の施策リストが続くイメージで考えていた。しかし、施策リストから脱却し、理念は共通しているが、大転換を図ろうとしたときに足を引っ張らないような計画書にできればと考える。

3月に完成したらよいのか。

事務局) そうである。

これまでは総花的であったが、課題を住民に伝えることは必要かと思う。バランスの問題で解決できるかと思う。

委 員) 中間評価はあるのか。

事務局) 評価は庁内でしている。

会 長) 今回は、これを実施するという意見でなく、動き方、活動の仕方に関する意見が多かった。評価についても質的な評価になる可能性がある。書きぶりについて、施策の細かなことよりも、行動計画的なものにしたらどうか。

副 会 長) 少なくとも3年間の計画を作り、修正していく仕組みを作り、通底する抽象化した大テーマで横繋ぎするということであろう。施策評価、進行管理については、KPIの設定等ではなく、委員会等で定性的な評価をしていく。その場で大テーマについても話し合うということかと思う。

事務局) 計画の進行管理の仕組みについては、計画の中の進行管理の項目に記載いただくことになる。

会 長) 大テーマが当初目標に届いたかに固執してモニタリングするのではなく、顕在化した結果、動いている内容、これが動いていれば大丈夫だということを評価すればよい。

副会長) それを事前に組み込んでおくということである。

豊中市の環境審議会では、原則、数字で評価するが、パートナーシップの部分だけは、定性的な評価としている。生物多様性などのテーマごとに、取り組んでいるグループに来てもらい、テーマについての取り組み等の話をする。評価と言いながら、ワークショップに意味を見出している。ちなみに阪大の先生の発案である。

3年後に自慢大会をしてもらったらどうかという話もある。計画の進行管理というよりも、町民の意識が変わり、町民に知ってもらうことが大事であり、町民側の動きを共有する会を3年後に持ち、もう一度考えようということである。

3年は少し短いので、3年で見直し、中間年で手直しをするイメージかもしれない。

会長) あと何回委員会をやれそうか。

事務局) 2月末の策定に向け、12月中旬～1月中旬にパブリックコメントを行う必要がある。12月には素案が必要なので、毎月、開催しても3～4回くらいである。

会長) これだけの人数を集めるのは難しいので、グループワークをしたらどうか。3つくらいの大きなテーマに分ける、もしくは、大綱について検討する会を2回とテーマの紐づけを確認する会をやり、どれかに参加していただくのでどうか。9～12月で分科会を3回ほど行い、人数を絞って作業をする。10年前は同時並行で分科会を行ったが、いまは前回と比べ事務局の人員が少ないので、小分けにするのがよいと思う。

事務局) 事務局で、検討内容のたたき台を作って案内するので、関心のある方に参加いただきたい。次は10月上旬～中旬にいずれかのテーマで開催する。日程は、後日連絡する。

・閉会

以上